

支援を通じて知財マインドが向上 高い技術力と支援経験を基に海外展開を目指す

本 社 〒980-0811
宮城県仙台市青葉区一番町1-16-23
TEL : 022-796-2117

U R L <https://www.c-and-a.jp>

業 務 内 容 1.シンチレータ結晶、アレイ、検出器作製 2.難加工性合金線材

設 立 年 2012年11月7日 **資 本 金** 550万円 **従 業 員 数** 24名



代表取締役CEO
吉川 彰氏

株式会社C&Aは、2012年に設立した東北大発ベンチャーである。東北大学の吉川教授・鎌田准教授等の20年を超える単結晶研究の経験を活かした、新規結晶材料の開発や融液からの結晶作製技術の開発を得意とする、所謂、ディープテックに分類される企業である。同社が開発したMo-W-Ru系合金の線材は、OLED製造装置内のヒーターとして用いると、従来のヒーターに比べて、省エネルギー・省電力・高耐久・温度レスポンス性が高い等の優れた点を有する。

■きっかけは、ライセンス交渉

同社は、2012年に設立した東北大発ベンチャーであり、大学発ベンチャー表彰を始め、数多くの賞を受賞している注目の企業である。同社は新規結晶材料の開発や融液からの結晶作製技術の開発を得意とする、所謂、ディープテックに分類される企業である。同社が開発したMo-W-Ru系合金の線材は、OLED製造装置内のヒーターとして用いると、従来のヒーターに比べて、省エネルギー・省電力・高耐久・温度レスポンス性が高い等の優れた点を有する。

同社では、上記合金線材の販売のために、他社とのライセンス契約を計画していたが、ライセンス交渉の経験が少なく不安を感じていた。

取材企業の声

INPITの支援でありがたかったことは、“人”が支援に来て、知財を武器にする方法を、直面している事例を使ってご指導頂ける点である。六つの経営資源のなかで、人・物・金・情報・時間・知財のうち“金”を支援していただける機会は増えてきた。もちろん“金”の支援は有難いが、ディープテックのベンチャーはどうしても様々な専門家が不足しているので、経験豊かな海外知的財産プロデューサーを始めとした専門家が来て支援していただけるのはとてもありがたい。

(代表取締役CEO 吉川氏)

そんな折、INPITを知り、海外知的財産プロデューサーによる訪問を受け、同社への支援がスタートした。

■社内で課題を認識

同社を担当したプロデューサーは、まずライセンス契約に向けて知財などの交渉でポイントとなる点を確認したところ、いくつかの課題が明らかとなった。そこで、担当プロデューサーは、ライセンス対象の特許の整理やライセンス対象製品と対価の関係の整理を行うことをアドバイスした。吉川氏は「当時を振り返るとたくさんの課題があった。研究開発の成果で世の中に貢献するという研究者のマインドが強く、知財権を網羅的に取得できていなかった。プロデューサーのアドバイスを受けて、抜けなく知財を抑える重要性に気づくことができた。」と語る。



同社の本社社屋

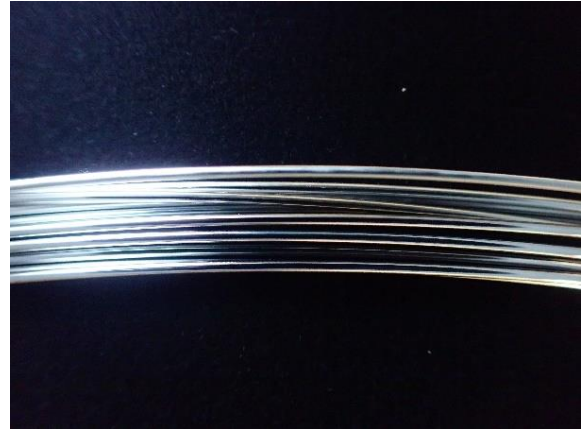
■ライセンス契約書の作成・締結

担当プロデューサーは、ライセンス契約作成に向けて、INPITで公開している「知っておきたい知的財産契約の基礎知識」を教材に、ライセンス契約に関するワークショップを開催した。ワークショップを通じて、ライセンス契約に向けて整理すべき知財等の重要事項を確認し、同社が結ぶライセンス契約では、「知っておきたい知的財産契約の基礎知識」に掲載された雛形をベースに、合金線材の製造方法に関するノウハウ開示の対価にポイントを置いた契約書を作成することとなった。最終的には、INPITの弁護士による海外知的財産契約書作成支援を利用し、同社に適したライセンス契約書の標準版（雛形）を新たに作成した。担当プロデューサーは「ライセンス契約は成功裡に締結。これをライセンス契約書標準版として位置付けて、次は開発&製造の委託契約並びに購買契約等の契約書標準版の策定に入る。」と述べる。

ワークショップ等、ライセンス契約書作成の過程で、同社の課題を整理することができたこともあり、同社は、最終的に望ましい形で、ライセンス契約を締結することができた。

■ オールINPITでの支援

支援開始当初、同社は、ライセンス契約の経験が不足しているだけでなく、特許ポートフォリオの課題や営業秘密管理の課題、大学との関係性等、様々な課題が存在していた。そのため、海外知的財産プロデューサーだけ



同社のMo-W-Ru系合金線材

でなく、宮城県知財総合支援窓口の窓口担当の千葉氏や、知的財産戦略アドバイザーの小原氏、弁護士などオールINPITで同社への支援を行った。吉川氏は「課題が明らかになるにつれて、新たな専門家が支援チームに加わり、支援の体制が構築されていったことは心強かった。経験豊かな専門家から自社の課題に合ったアドバイスをいただけるので、我々も真剣に自社の課題に向き合うことができた。」と振り返る。

現在、同社は欧州の大手企業との共同研究も進めており、今後は海外への展開も視野に入れている。今回の支援でライセンス契約の標準版を作成した経験が、将来の海外企業とのライセンス契約の基礎となることであろう。

支援を振り返って

株式会社C&Aはディープテックのスタートアップであり、大きな飛躍のポテンシャルが期待できる。株式会社C&Aのさらなる成長を支えるべく、知財契約マネジメントを含めて今後の支援を行う所存である。

（海外知的財産プロデューサー 松島重夫）

今後の事業展開

今回の支援でライセンス契約を締結し、合金線材事業の売り上げの見込みが立ったことで、ベンチャー企業として一つの区切りがついた。現在、欧州の大手企業との共同研究も進んでおり、将来的には、海外展開も視野に入れている。

今後は、合金線材事業が軌道に乗るように、知財契約マネジメントを含めて、引き続き支援を行っていく。